

(35) 安達太良山の重晶石

参考文献(1)を手引きに、安達太良山の西側の登山口の1つである沼尻温泉から行き着ける重晶石の産地へ探査に行った。沼尻スキー場の中の林道を登っていく。林道終点に広い駐車場がある。ここから歩く。下の地形図は2枚を繋げた物である。地形図の制作年がだいぶ異なっているようである。スキー場上部の当り、つまり駐車場の当りがかみ合っていない。かみ合いの良い地形図を見たければ、市販されている安達太良山の登山地図を見ること。沢沿いの登山道を進む。登山道には源泉から湯を送っているパイプがずっと並行している。(廃坑)の所から、沢を右下に見て進んでいく。地形図で硫黄川の文字の「川」の字の下に温泉記号がある。ここが源泉であり、大量の湯が沸き出すと共に、硫化水素ガスも多いそうである。無風時には沢底への接近は要注意である。重晶石の産地はこの源泉近くの赤丸の所である。参考文献では大きさ2cmの単結晶も少なくはないような記述がある。が、今回採集した物は最大で1cm程度であった。でも、悪くはない。



地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図地図「安達太良山」+「中ノ沢」

探査日 2009年6月

参考文献

(1)「フィールド版 続鉱物図鑑」、松原聡、丸善、1997年。

鉱山跡写真



駐車場から見た鉄山への沢コースの入り口



左の建物は湯ノ花採取業者の飯場らしい。その少し右に、完全に朽ち果てた廃屋がある。中央付近の白煙は源泉の湯気である。湯気の右手の斜面が産地。



重晶石の出る箇所は幾つかある。その1つ。崩れがかった露頭に顔を近づけて見ると、岩の割れ目に重晶石の成長状態が見れる。回りには、重晶石の転石も結構ある。



産地から登ってきた飯場方向を見ている。

採集鉱物写真

品名	重晶石	バリウムの主要鉱物
化学組成	BaSO_4	
色	透明、白、茶、黄	
光沢	ガラス光沢	
条痕色	白	
比重	4.5	
硬度	3~3.5	
結晶系	斜方晶系	
劈開	3方向に完全	
共生鉱物		
解説	この産地の重晶石の結晶は正方形、さいころ型のようなものである。母岩の隙間に成長する。従って、間隙が広ければ、大きな単結晶も成長するであろう。次回には、転石を良く探すことと、間隙の広いご飯を探してみよう。	



産地での転石。小さい結晶が面状に密集している。簡単に見つけられよう。



1 cm近い結晶群であるが、惜しいことに風化が激しい。



結晶型が良く残っていた採集品



同上